

会議等出席報告書

総合戦略部 経営戦略課

| | | | |
|--|--|----|---------------|
| 会議等名 | 第4回甲斐市地域公共交通会議 | | |
| 開催日 | 令和5年7月26日(水) 午前10時から | 場所 | 新館2階 防災対策室 |
| 出席者 | 会長(瀬戸副市長)、副会長(武藤委員)、委員(池田委員、篠原委員、菊島委員、塩沢委員、茂木委員、中村委員、田中委員、進藤委員、森下委員、野田委員、本住委員、森委員、箭本委員、谷内委員、植松様(渡辺委員代理)、丸山委員) ※穴水委員は欠席 事務局(経営戦略課:酒井課長、石原経営企画係長、三井、小林) | | |
| 1. 開会(司会:酒井経営戦略課長) | | | |
| 2. 会長あいさつ(瀬戸副市長) 令和5年5月の会議に続き本日が4回目の会議となる。本会議は地域交通の確保と利便性の向上を図るとともに、地域公共交通計画の策定及びその他必要な事項について協議することとなっている。本日は甲斐市版次世代型モビリティシステム構築プロジェクト及びプロジェクト予算について御協議いただく。また、敷島北部地域で実施するAIオンデマンド交通の状況報告、甲斐市民バス医大線の土日実証運行の状況報告及び甲斐市地域公共交通計画素案作成業務委託の状況報告をさせていただく。 本市公共交通の未来を担う会議となるので、忌憚のない御意見を賜りたい。 | | | |
| 3. 案件(議長:瀬戸会長) | | | |
| (1) 甲斐市版次世代型モビリティシステム構築プロジェクトについて | | | |
| ・資料1-1及び1-2のとおり説明(事務局:石原経営企画係長) | | | |
| ・内容について、承認される。 | | | |
| 【質疑応答、意見】 | | | |
| 委員:モビリティハブの整備については新たな試みとして大変興味深いものであるが、モビリティハブを利用するにあたりAIオンデマンド交通を運行した時の需要予測はされているのか。自家用車利用者がどれくらいAIオンデマンド交通を利用するか等の見解を聞きたい。また、共創パートナーもスポンサーとして考えているのか。それ以外のスポンサーをどのように獲得する考えなのか。 | | | |
| 事務局:利用予測については、昨年実施した双葉北部地域での実証運行結果では市民バス利用者の3倍程度の利用があったことから同じ程度の利用を目指している。また、モビリティハブのパートナーである7団体について、スポンサーをお願いするところであるが、9月から始まる敷島北部での実証運行については、スーパーや診療所に御協力いただき広告収入を試験的に実施しているので、11月からの実証運行についても同様に停留所となるような診療所・スーパーにはご協力をお願いする。参考として、9月から実施する「かいのり」の停留所マップの11ページにあるように事業者から協賛 | | | |

を得て広告を掲載している。

瀬戸会長：EV 車両 5 台の実装と説明があったが、甲斐市は環境省からこの 4 月に脱炭素先行地域に選考され交付金が 2/3 確保されるが、ハイブリット車は補助対象となるのか。

事務局：共創モデル実証プロジェクトでは車両購入も対象となる。脱炭素の関係ではハイブリットは対象にならないかと思う。現在は、ワゴンタイプの車両 2 台を市民バスとして運行しているが、常用タイプの EV 車両では十分な乗車人数を確保できないため、ハイブリット車を最低でも 2 台は用意し AI オンデマンド交通で利用する予定。

(2) プロジェクト予算(案)について

- ・資料 2 のとおり説明（事務局：石原経営企画係長）
- ・内容について承認される。

【質疑応答、意見】

委員：歳出の委託料について、システムの委託料として 940 万円とあるが、これはシステム構築に係る経費で、一度構築したシステムは他のところで使っていけるものか。今回の実証のためにシステムを拡張することになるのか。

事務局：今回のシステムについては昨年の実証と同じシステムを活用するが、停留所の場所等変更する箇所もあるので再構築が必要となる。今後はそのシステムを導入すれば、使用料として支出することになる。

瀬戸会長：今回のパンフレットは敷島北部の 9 月からの内容で、竜王は今後やっていくことになるかと思うが、見通しについて説明いただきたい。

事務局：竜王を含めた 11 月からの実証については、9 月と同様に診療所やスーパー等に広告協賛をお願いしていく。また、モビリティハブとなるスポンサーにも協力金を求めていく。

瀬戸会長：11 月から 12 月の実証が共創プロジェクトの補助金の対象となり、9 月からの実証は補助金を活用せず前回会議した協議した内容として実施するということでよろしいか。

事務局：9 月からの実証は市の一般会計で支出し、11 月からの共創プロジェクトについては国の交付金を活用し地域公共交通会議として事業を実施する。

委員：9 月と 11 月の実証運行はそれぞれ別々に申し込みをするのか。

事務局：同じシステムを使用する予定なので、利用者は一度利用すれば同じ登録証で利用可能となる。昨年度の利用者については、9 月からの実証について同意をすれば利用可能となる。11 月についても一度登録すれば、同意いただければ同じ登録証で利用可能となる。

委員：9 月と 11 月について、申込方法やシステムの利用方法は同じとなるのか。

事務局：システムについては同じものを使用する予定で、利用者についても同じ利用方法で利用できるようにしたい。

4. その他

(1) AI オンデマンド交通実証運行(敷島北部地域)の状況報告

・資料3のとおり説明(事務局:石原経営企画係長)

【質疑応答、意見】

特になし

(2) 甲斐市民バス医大線の土日実証運行の状況報告

・資料3のとおり説明(事務局:石原経営企画係長)

【質疑応答、意見】

特になし

(3) 甲斐市地域公共交通計画素案作成業務委託の状況報告

・資料3のとおり説明(事務局:石原経営企画係長)

【質疑応答、意見】

瀬戸会長:公募開始はいつか。

事務局:これから公募要領を作成し、8月には公開し1ヶ月間の募集期間を設けて選定する予定。

瀬戸会長:その他全体を通じて委員の皆様から何か質問があるか。

委員:9月からの敷島北部の実証について、現在の登録者数は33名とのことで、協賛する事業者がこれだけある中で登録者についてはもっと増える見込みなのか。

事務局:対象となる地域については、8月号の広報と一緒に停留所マップを全戸配布するのでもう少し増える見込み。また、対処地域のいきいきサロン等にも出向き登録を呼びかけるつもりである。

委員:申し込みは市外県外の方もできるのか。

事務局:市内の方に限らず、市外の方の登録と利用が可能。

5. 閉会(酒井経営戦略課長)

午前10時45分頃終了